

創刊号

(2023年4月30日)

鶺鴒だより

発行：岩手保健医療大学
学報編集委員会
(委員長：濱中喜代 学長)
TEL：019-606-7030
http://www.iwate-uhms.ac.jp/
※鶺鴒「せきれい」には、「背筋を伸ばした美しい姿勢の鳥」という意味があります。

2023 (令和5) 年4月30日



令和4(2022)年度 卒業式・修了式 式辞
岩手保健医療大学 学長 濱中喜代

●本日晴れて、岩手保健医療大学学位記授与式を迎えられた学部生67名、大学院生5名の皆様、誠にありがとうございます。岩手保健医療大学の教職員一同および在校生を代表して、心からお祝い申し上げます。また、卒業のこの日まで皆様を支え、励ましてこられたご家族やご親族の方々のお喜びもひとしおのことと思います。心からお祝いを申し上げます。

●2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、学部生の皆様は想定外の不自由な大学生活を余儀なくされました。2年生の実習は学内の代替実習になり3・4年生の領域実習や総合実習の一部も学内の代替実習になりました。それでもこの状況下で実習や授業などの大学の教育課程をほぼ予定どおり実施することができたことは、他の地域と比較すると恵まれていたともいえるでしょう。

●とはいえ、制限や不安の多い厳しいなかで勉学に励み、国家試験という難関に挑み、卒業というこの日を迎えられましたことは、皆様の毎日の積み重ねの結果であり、その努力に敬意を表したいと思います。大学院生の皆様も授業はほぼ予定通りできておりましたが、研究のためのデータ収集においてご苦労があったことと推察いたします。そのなかで修士論文作成を成し遂げられたことは大変意義深いことであり、皆様の今後に大きな力となることでしょう。

●学部生の皆様は進学する1名を除いて、この春から看護師・保健師となり、職業人として歩み始めることとなります。これからは職業人として患者様や利用者の皆様にケアすることになります。研修制度が義務化され、新人研修等はそれぞれの職場で計画されているとは思いますが、コロナ禍で実践的な学びが少なかった分、チームの一員として仕事をしていくことは相当大変なことと思われます。先輩たちも厳しい状況下で元気に活躍しておりますので、皆様も本学で学んだことを活かし、自分自身を活かし、自信をもって実践の場に臨んでほしいと思います。大学院生の皆様は3名が本学の専任教員として、2名は臨床で看護師として今後も活躍する

予定です。皆様の未来が幸多いことを心から願っています。

●さて、本学で大切にしていることに「ケア・スピリット」があります。自ら進んでケアに向かう姿勢と定義しています。学部の皆様は人間尊重と共感的態度の得点が高かったですね。大学院生の皆様はケアの社会性、正義・公平性と向上心の得点が高かったです。相手の最善を考えて、ケアするには、専門的な知識の裏付けと技術が必要です。「ケア・スピリット」は生涯かけて完成させていくものです。皆様の今後の看護実践・教育実践の中でさらに進化し続けるものであり、またそれらを支えるものにもなると思います。これからもどうぞ大切にしてください。

●哲学者のミルトン・メイヤロフのその著書「ケアの本質：生きるこの意味」には「人のために行っている看護という行為が最終的には看護する人に戻ってくる。看護はその人自身を成長させてくれる」という意味の内容が記されています。私自身も病気の子どもやご家族を看護するなかでそのことを実感してきました。

●1つエピソードを紹介します。今から10数年前のことです。難病の子どもと家族のためのキャンプの運営・実行委員としてボランティアをしていた時のことです。医療的なケアが必要な寝たきりで発語もない12歳のお子様で吸引等に技術が必要で難しいため私が担当することになりました。大学1年生の学生さんも一緒にケアしました。その時にお母様から忘れられない一言をお聞きしました。「どんなに経験があっても子どもを物のように扱う看護師よりも、新人でもあたたかく声かけ、人として接してくれる看護師の方がずっといい」という言葉でした。お母さまのレスパイトとしてゆっくり自由な時間を作るためにつきっきりでケアしている私たちに、どうしてそんなことをいうのか初めはよくわかりませんでした。でもよく考えてみたら、ご自分のお子様を物のように扱った看護師に出会った辛い体験から出た言葉であったことに気づきました。同じ看護師として大変申し訳なく思いました。どんなことがあっても相手を尊重する姿勢のある看護師であってほしいとの願いが込められていること、ベテランであってもあればこそ、相手の尊

厳を守ることがいかに大切であるかを再度教えてもらった出来事でした。このあとも難病や過酷な状況のなかで生きている多くの病気の子どもとご家族を看護させていただきながら、それぞれの方々の人生に大きく関わり、人として成長させていただく体験をしてきました。「人のために行っている看護という行為が最終的には自分に返ってくる、自分を看護して成長させてくれる」この実感を看護実践のなかで是非味わってください。皆様がこのからの看護実践を通して、人として豊かに成長されることを心から願っています。

●本日皆様は卒業あるいは修了して本学の同窓生になります。同じ看護の道を究めていく仲間として、一緒により良い看護を目指してさらに歩んで参りま

しょう。もし挫けそうになったら、いつでも声をかけてください。迷ったらいつでも戻ってきて相談してください。臨床に出て、もっと勉強したいと思ったら修了生のように大学院で学び直す方法があります。私も含めて本学の教職員一同がいつでも応援していることを忘れないでください。

●最後になりますが、ロシアのウクライナへの軍事侵攻は1年が過ぎましたが終結の見込みはなく、さらに厳しい状況になっています。多くの人々の命が犠牲になり、まだまだ危険にさらされ続けています。また先日のトルコ南部の地震では、いまだかつて経験したことのない被害が起きています。紛争や自然災害では予備力の低い子ども、女性、老人、障がい者、病人が大きな

被害を受けます。こういった人達を支え、援けることも私たち看護専門職者の使命であると思います。

●自然災害はいつ起こるかわからないことですし、戦争の火種はいつ私たちの生活に襲いかかってくるかもしれません。常に社会情勢に目を向けることを忘れないでください。皆様の今後の人生においても良いことも悪いことも様々なことがあると思います。どうぞ、その時その時を人として看護専門職者として大切に生きてください。

●今後の皆さんの活躍をこころから祈念して、学長の式辞といたします。本日は誠にありがとうございます。



令和4(2022)年度 卒業生 答辞 看護学部 卒業生代表 細川理加 さん



践しなければならぬこと等、自分の思い描く看護ができず悔しい思いをしたこともありましたが、緊張しながらのぎこちない援助にも、笑顔で接し「ありがとう」と声をかけて下さる患者さんに励まされ、「どのような時でも患者さんに寄り添い、個別性を考えた看護をしたい」という自分自身の看護観を深めることができました。4年間の学びの集大成となる国家試験では試験日が近づくにつれ、日に日に増していく不安や焦りに押し潰されそうになりました。友人と連日演習室を予約して学修する日々を過ごし、時には国家試験後に行きたいこと、4月から始まる新生活について夢を語り合うこともありました。国家試験対策において、模擬試験や補講の支援をして下さった後援会の皆様、学修環境を整え、親身になって寄り添い指導してくださった先生方、一番の味方で応援してくれた家族のおかげで国家試験に臨むことが出来ました。本当に多くの方々の支えがあったからこそ、この4年間を乗り越えることができたのだと思います。心から感謝しております。

●4年前の入学式で、ここにいる仲間と出会い、今日まで共に歩んできました。決して楽しいことばかりの大学生活ではあり

ませんでした。一番近くには仲間の存在がありました。共に笑い・共に泣いて過ごした日々はかけがえのない思い出となり、一生もの友情を育むことができたと思います。

●4月からそれぞれの場所で新たな一歩を踏み出します。その前途は決して容易なものではなく、厳しい試練を受けることもあるかもしれません。それぞれの道を進むにあたり、岩手保健医療大学で看護を実践するために積み重ねた知識・技術、本学が掲げるケアスピリット、仲間と過ごした日々は、今後、悩みや戸惑いが生じた際の後ろ盾となり、心の支えとなることを確信しております。岩手保健医療大学で学んだ誇りを胸に、自己研鑽を怠らず、一人の医療者として社会に貢献できるよう日々精進して参ります。

●最後になりましたが、今日まで熱心にご指導してくださった先生方、並びに職員の皆様、快く実習を受け入れて学びの機会を下さった医療施設の皆様、そして陰ながら支えてくれた家族、お世話になった全ての方々へ深く感謝申し上げます。そして、岩手保健医療大学の更なる発展をご祈念申し上げますとともに、本学の卒業生として社会貢献に努めることをお誓い申し上げます。卒業生代表の答辞と致します。

令和4(2022)年度 修了生 答辞 看護学研究科 修了生代表 高橋明美 さん



●本日は、多くの皆様のご臨席を賜り、このように盛大な学位記授与式を催していただき、修了生一同、心より厚く御礼申し上げます。また、只今は、皆様から温かい励ましのお言葉を賜りましたこと、重ねて御礼申し上げます。

●私達は、本学大学院の第一期生として、それぞれの臨床や教育実践の場で抱いた疑問や問いに関する研究に取り組むために、本学

の看護学研究科へ入学しました。私の臨床経験の中から生まれた問いは、現場の看護を良くしていくための看護管理責任者の認識や行動についてでした。研究に取り組む過程では、経験豊富で、研究への真摯な姿勢を持つ先生方の指導や先生方との議論を通して、臨床での経験がどのような意味をもっていたのかを振り返り、自らの問いに対する考えを探求することができ

ました。

●修了生5名は、専攻する学問領域も様々ですが、それぞれの研究において、自分の問いに対する結果を導き出し、全員がまとめあげ修了することができましたことは大きな喜びです。これもひとえに、私達の行く道を照らし、時に、背中をおして激励しながら、私たちが理解できるまで時間をとおさずにご教示下さった諸先生方、一期生で何事も前例がなく戸惑う私たちに、働きながらも学びやすいようにといつも親身になって面倒をみてくださった本学の職員の皆様、そしてかけがえの無い同期のおかげと感謝しております。

●大学院では、研究の基礎をはじめ、研究以外にも、その道の第一線で活躍され高度な学識を持つ多くの先生方から学ぶことができました。この二年間の学びでは、うまくいったことも、うまくいかなかったことも含めて、学問の面白さとその厳しさを実感しました。さまざまな講義や研修からの学びは、私自身の看護管理の集大成となっただけでなく、これから先の人生を

豊かにしていくうえで、大変貴重な宝物になりました。

●今後、研究はこれからが始めりと捉え、本学のケアスピリットをもって、それぞれの立場で自分たちの果たすべき事に丁寧に考えながら、地域社会に貢献できる研究を推進していけるよう精進して参ります。

●最後に、これまで私達を励ましながら、辛抱強くご指導下さいました濱中学長をはじめとした諸先生方、応援してくださった大学職員の皆様、支えてくれた友人や家族に、修了生一同、心より感謝申し上げますと共に、皆様のご健康と岩手保健医療大学の更なるご発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

